

今年もいっしょにやいませ!

毎年恒例となっている安代小学校3学年の工場見学が7月20日に行われました。発破の実地見学のほか、ド

ローンの飛行、油圧ショベルへの玉入れ、油圧ショベルとの綱引き、体験試乗と日常にはない採石場のスケールの大きさを体感していたいただきました。あつという間の2時間でしたが、子供達の記憶に残ってくればと思います。また、翌週には子供達全員から、感謝の手紙をいただきました。来年もまた来てくださいなね。



ドローンに向かって ハイチーズ!



ナイス シュート



上手に獲物をゲット



一人一人感想を書いてくれました!



～盛和塾・最後の世界大会～

盛和塾に入塾させていただきかれこれ6年ぐらいになるだろうか! 稲盛塾長の一言一言が心に染み入り本当にそうだなあ～と思いつつも、これを実践するとなると人間の業との狭間で揺れ動き中々実践できない私ですが、世界大会の経営体験発表を聞くとみな悩み苦しみがきつ

つ、その中で塾長の教えをど真剣に実践することで遅く成長し業績が急上昇していく様は、経営者自らが宇宙の真理に近づくことで社員一人一人の心もちも変わり成功軌道に乗ることができるのだと改めて実感しました。稲盛和夫塾長が主宰する盛和塾は今年12月31日をもって解散することとなり今回が最後の世界大会でした。当日朝一番の新幹線で横浜に向かったのですが新幹線に乗ってしばらくすると、みよーに神妙な自身の気持ちに気づき、なんだか寂しいなあと感じたのです。そんなに一生懸命に勉強もしていない不良塾生ですが、やはり何らかの影響を受けていたのだなあと思ったのです。五千人の懇親会は凄い熱気でしたが、そんな会場で昨年隣の席で意気投合したNさんと偶然また隣のテーブルで驚きの再会もあり多くの想いを残した最後の世界大会となりました。

稲盛塾長の教えは人間修行であり利他行でもあります。会社は器であり、その器は人の心を高めるものでなければなりません。「心高める、経営を伸ばす」という稲盛塾長の言葉がありますが、会社はトップはじめ社員の心を高めあう職場にしなければと思います。実はまだ読んでいない盛和塾の機関紙が何冊もあるのですが、今となってはそれが貴重な財産です。心して、ありがたく、じっくり読み塾長の教えを実践していきたいと思ひます。稲盛和夫塾長本当にありがとうございました。これまでの教えをしっかりと実践していけるよう、ど真剣に頑張っていります。

末席の一塾生より

登板走路開通



春から取り組んできたサツパ沢地区の切替走路が開通した。これにより既存の走路を撤去して、調整池や排水路の整備が可能となる。サツパ沢地区は標高差が130mあり、安全な走路が確保しづらい地形である。これからも急勾配箇所の緩和に努め、安全な作業環境を作らなければならない。



～先駆者～



初めてのことに、不安とリスクが伴うものだ。できることなら誰かが歩いた足跡をなぞって歩いたほうが楽ちんである。サツパ沢の山のてっぺんは表土処理の真っ最中で、日々地形が変わっている。そんな所に一本の若木が生えた。じわじわと領域を拡大したのでなく、孤立無援の場所に敢然と生えている。採石業は地形を変える業種がら、跡地再生は大きな課題である。普通緑化には長い時間がかかる上、生育の早さや適応性を優先するため、在来の樹種と異なる林ができてしまう。若木を見ていると、もともと自然には再生力があることに気づく。そんな力を援助することで、在来の再生に近づくことができるのではないかと。一人で孤軍奮闘する若木に教えられることである。

プラチナ賞受賞

福田運送



この度、福田運送が令和元年第一期優秀安全運転事業所表彰でプラチナ賞を受賞いたしました。この賞は、事業所ぐるみで運転記録証明書を活用し、安全運転、交通事故防止に努め、無事故・無違反の成果を挙げられた事業所がいただけるものです。前回は金賞、今回は最高のプラチナ賞を頂きましたことを誇りに今後も安全運転に務めます。

編集後記

実母が2週間ほど滞りました。横浜のデパートで繁忙期には何度も売上げトップを取り、表彰されてくるすごい母でした。それでも料理が得意で仕事帰りの遅い夕飯であるにもかかわらず手料理をしてくれました。そんな母が定年になり『退屈な毎日にボケるのでは・・・』と私の心配をよそに、現在はいかに安くおいしくて豪華に見える料理を作り、人を喜ばせることを考え過している。これがたくさんのお客様にお買上頂いた秘訣なのかもしれないと母を誇りに感じました(^^)

他愛もないこと

ラッキーピエロ



北海道の七飯町は「男爵イモ」の発祥地だそう。それを聞いて、当地で男爵イモを食べると格別においしい。男爵イモの街灯も微笑ましく、好感が持てる。函館の消火栓は黄色である。どんな理由かはわからないが、ちょっとした反骨を感じる。マクドナルドはないけれど(あるかもしれない)ご当地バーガー「ラッキーピエロ」がある。みんな当たり前前に食べている。狭く閉じた所での当たり前は、よそ者にとって異国情緒を感じさせるものだ。